

魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名:井手 健仁 所属:白岡市立南中学校 記録日:2023年2月9日

キーワード:書くことの困難さをデジタル化で改善、実態の把握、学力向上・認知能力の改善

【対象児の情報】

・学年

中学2年生の男子 通常学級

・障害名

生徒: エーラス・ダンロス症候群

・障害と困難の内容

生徒:エーラス・ダンロス症候群により手の指に力が入りにくく文字を書くことに困難さを持っている。

新しいことや想像して行うアウトプットや、行動に移すまでに時間が掛ってしまうことがある。

【活動目的】

1.当初のねらい

- ・ICT を活用し、考えをアウトプットする量を増やしていく。
- ・考えたことを行動へ移すまでの時間を短縮、取り組むべきことへの集中力の持続。
- ・クラスや行事等で自己肯定感を高めていく。
- ・学習アプリ等を活用した認知能力・学力向上。

2.実施期間

- ・美術科 振り返りシート 2022 4月から～
- ・「Googleカレンダー」「アラーム」「ミライシード」などの取り組み 2022 7月～
- ・総合質問紙 i-check (東京書籍) 2022 5月と11月の2回
- ・「コグトレ」オンライン 2023 1月末～

3.実施者

井手 健仁(2学年主任)

4.実施者と対象児の関係

担当学年の生徒

【活動内容と対象児(群)の変化】

1.対象児(群)の事前の状況

- ・エーラス・ダンロス症候群のため、指の関節がやわらかく文字を書くことに困難さを感じている。
- ・2017年 小学3年(8歳)の時にWISC-IVを受診
FSIQ78 VCI93 PRI87 WMI65 PSI76
考える力はあるが、行動することや、考えること下支えする基本的なことが苦手である。(WISC-IV診断結果より参照)
- ・今年度5月に行った東京書籍株式会社「総合質問紙調査 i-check」の内容項目で、「感動体験」「他者からの評価」「ソーシャルスキル」「学級の絆」「生活習慣」についての値が改善/配慮が必要な結果があった。

2.活動の具体的内容

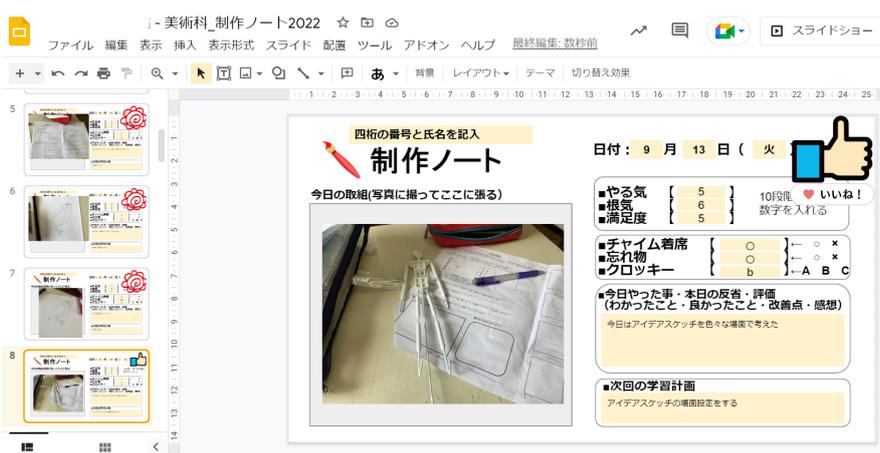
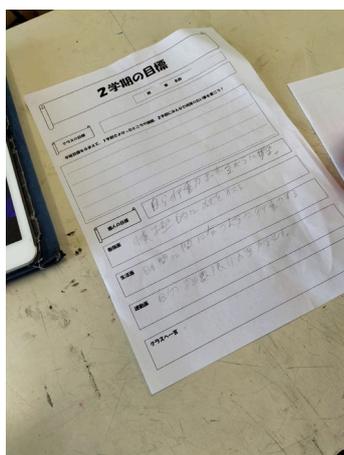
① 使用した機器 : iPad

活用 ICT : 「**グーグルカレンダー**」「**グーグルスライド**」「**iPad アラーム機能**」

「**ミライシード**」(ベネッセ)、**総合質問紙 i-check** (東京書籍)、**コグトレオンライン** (東京書籍)

実施した時間帯 :

- ・面談指導 (9月~隔週1回、放課後30分程度)
- ・総合質問紙 i-check (東京書籍) 5月と11月の2回
- ・コグトレオンライン (東京書籍) 1月末~



■手書きのプリント。文字を書くことに困難さを感じている。

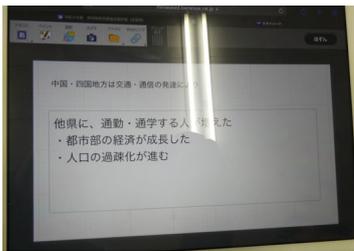
■美術の振り返りをデジタル化して入力してもらっている。文章量はまだ少ないがコンスタントに考えを入力することができている。



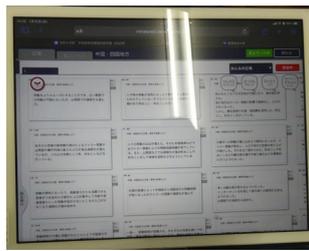
■グーグルカレンダーで1週間の予定を入力して活動の見通しを持たせる活動。起床時間に「アラーム」機能を設定して自分で起きられるように取り組んだ。

② 実践活動

- ・iPad など ICT 機器を日常的に学習に活用する習慣がなく「iPad を定期的にかけてみる」ところから始めている。朝の健康観察時、学校生活後、家に帰って iPad を開く。(最低 1 日 2 回)
- ・一週間の活動の見通しを持てるように「グーグルカレンダー」に予定を入力する取り組みをした。(月曜の放課後、1 週間の予定を入力)
- ・美術科の授業では振り返りシートを手書きではなく、「グーグルスライド」を活用してデジタルで入力して考えのアウトプットの量を増やしていく活動を行っている。
- ・生活習慣で朝が起きられない、ということがあったので iPad の「アラーム」機能の活用を試している。
- ・「ほめあい」プロジェクトとしてクラスの仲間とお互いにほめあう時間を作り、自己肯定感の向上につなげる活動を行っている。
- ・総合質問紙 i-check を 5 月と 11 月の 2 回行い、5 月に生徒の実態把握し、支援を行い、11 月に変容を見取る活動を行った。
- ・認知トレーニング「コグトレ」(Cognitive Training)。身体面・学習面・社会面の 3 方向から困っている子どもを包括的に支援するプログラムで、認知機能に含まれる 5 つの要素(記憶、言語理解、注意、知覚、推論・判断)に対応する、「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」力を伸ばすためのトレーニングを行っている。



■ ミライシード (ベネッセ) による意見のアウトプットと他の生徒の情報共有



■ 「コグトレ」オンラインによる認知力向上トレーニング

3.対象児(群)の事後の変化

はじめは大きな変化は見られなかったが本人はどの活動も素直に取り組むことができている。iPad などデジタル機器に触る機会を増やすことでデジタルでの考えのアウトプットに対する抵抗感がなくなっている。本人はまだ手書きのほうが良いと感じている部分もあるが、いざ文章を書く段階になると動きが止まってしまう、なかなか考えをアウトプットできない場面があった。デジタルになっても考えのアウトプットの量は増えていなかったが文字を書く困難さはなくなり、最近は教科への興味関心の高まり、教師のとのコミュニケーション力の向上により徐々にアウトプット量が増えてきている。

4.主観的気づき

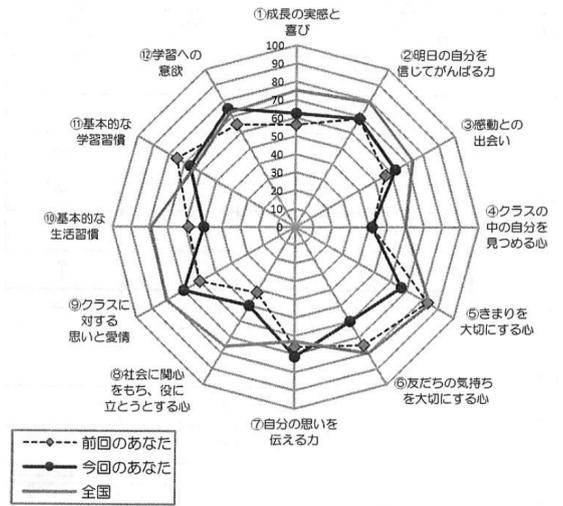
本人とのかかわりの中でアウトプットをデジタルに変えることで、手で書くことの困難さはなくなりアウトプットの書く内容量が増えることを期待したが想定したよりも劇的に増えるようなことは起きなかった。書く内容量を増やしていけるような指導をすることで書く内容量は増えてきたがデジタルだけではなくアナログでのアウトプット量も両方増えてくるという意外な結果になった。書くことへの本人の意識の高まりが大きく関係していると思われる。引き続きアウトプット量を増やしていける関りをしていきたい。

5.エビデンス(具体的数値など)

■総合質問紙 i-check (東京書籍)

総合質問紙 i-check を5月と11月の2回行い、5月に生徒の実態把握をして、11月に変容を見取る活動を行った。今年度5月に行った i-check の内容項目では、「感動との出会い」「クラスの中の自分を見つめる心」「社会に関心を持ち役に立とうとする心」「クラスに対する愛情」「生活習慣」についての値が改善/配慮が必要な結果があり、その改善を意識した関りを行った。11月の2回目の結果では全体の総合値はわずかではあるが改善が見られ、「自分の思いを伝える力」「社会に関心を持ち役に立とうとする心」「クラスに対する思いと愛情」「学習への意欲」「成長の実感と喜び」の数値に改善が見られた。「規範意識」「思いやり(人間関係構築力)」の値は下がってしまったが、「対人ストレス」「学級の絆」「学習意欲」の値が改善していることと、自己主張ができる場面が増えたことの裏返しと考えることもできる。

対象生徒 iチャート(生徒用)



総合質問紙 i-check 結果【標準スコア】			
	5月	11月	前回との差
総合値	41.8	42.0	0.2↑
家族のささえ	45.5	42.5	(3.0)↓
友だちのささえ	45.2	41.2	(4.0)↓
先生のささえ	46.5	42.8	(3.7)↓
成功体験と自信	38.2	42.1	3.9↑
充実感と向上心	42.2	42.2	0.0→
感動体験	38.8	42.9	4.1↑
他者からの評価	40.5	40.5	0.0→
規範意識	48.8	35.0	(13.8)↓
思いやり(人間関係構築力)	46.1	35.0	(11.1)↓
発信力	51.9	55.2	3.3↑
対話・話し合い	57.1	51.6	(5.4)↓
社会参画	35.0	35.0	0.0→
学級の規範意識	62.0	62.0	0.0→
学級の絆	35.0	42.0	7.0↑
いじめのサイン	49.1	45.4	(3.6)↓
対人ストレス	41.4	51.2	9.8↑
生活習慣	35.0	36.2	(1.2)↓
学習習慣	55.4	51.2	(4.2)↓
学習意欲	44.5	51.7	7.2↑

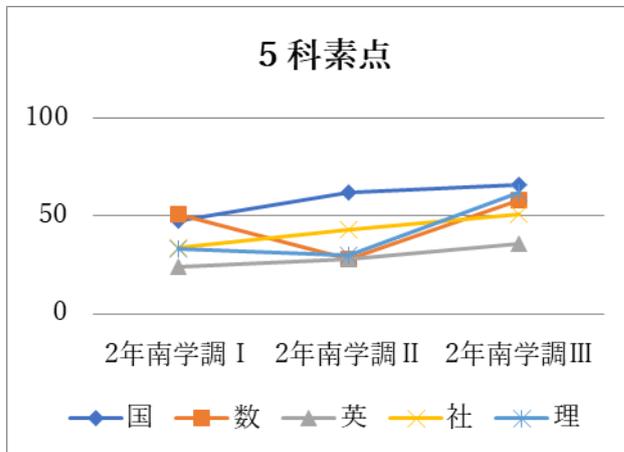
総合質問紙 i-check 結果【iスコア】			
	5月	11月	前回との差
総合値	2.8	2.8	0.0
家族のささえ	3.0	2.8	-0.2
友だちのささえ	3.0	2.8	-0.3
先生のささえ	2.8	2.5	-0.3
成功体験と自信	2.3	2.5	0.3
充実感と向上心	2.8	2.8	0.0
感動体験	2.3	2.5	0.3
他者からの評価	1.7	1.7	0.0
規範意識	3.3	2.7	-0.7
思いやり(人間関係構築力)	3.0	2.4	-0.6
発信力	2.6	2.9	0.2
対話・話し合い	3.7	3.3	-0.3
社会参画	1.7	2.0	0.3
学級の規範意識	3.7	3.7	0.0
学級の絆	2.4	2.8	0.4
いじめのサイン	3.7	3.6	-0.1
対人ストレス	2.5	3.2	0.7
生活習慣	2.3	2.0	-0.3
学習習慣	3.0	2.7	-0.3
学習意欲	2.6	3.0	0.4

※【標準スコア】とはカテゴリーに属する全質問のiスコア平均を計算し、それを基に全国平均を50とする“偏差値”として算出したもの。生徒の回答を全国平均を基に標準化したものであるため、相対評価的側面を持つ。

※【iスコア】とは4択の質問を対象に、各選択肢に配点で得点を与え、カテゴリーごとに算出した平均値(min1.0~max4.0)生徒の回答をそのまま点数化したものであるため、絶対評価的性格を持つ。

■2学年 定期テスト素点推移(5教科)

本校で定期的な学力の状態を確認するため学力状況調査を行っている。2年生になってから6月、10月、11月の3回の学力状況調査での本人の状況を確認すると、全教科で学力が伸びていることが分かる。理科、数学の伸びが顕著で5教科合計点数も+83点と大幅に伸びている。学校での様々な取り組みや本人の学習に対する意欲の高まりが結果につながっていると考えられる。



	国	数	英	社	理	5科計
2年南学調 I	48	51	24	34	33	190
2年南学調 II	62	28	28	43	30	191
2年南学調 III	66	58	36	51	62	273

■美術(制作ノート)

デジタルによる制作ノートによる振り返り活動において、振り返りの記入量が以前に比べると増えてきている。授業中も分からないことも自分から質問することができ、自分の考えのアウトプットもできるようになってきている。美術の技能部分ではアイデアを出す部分では時間がかかる場面も見られたが地道に制作をつづけることができていた。

四桁の番号と氏名を記入 制作ノート

今日の取組(写真に撮ってここに張る)



日付: 1月31日(火)

■やる気 { 6 } 10段階評価で数字を入れる

■根気 { } 10段階評価で数字を入れる

■満足度 { } 10段階評価で数字を入れる

■チャイム着席 { } ← ○ ×

■忘れ物 { } ← ○ ×

■クロッキー { A } ← A B C

■今日やった事・本日の反省・評価 (わかったこと・良かったこと・改善点・感想)

今日は水墨画の続きをしました。フルーツの水墨画を書き切ることが出来なかったため、次回はその続きをしたいと思えます。

■次回の学習計画

果物の水墨画の続き

(↑デジタルによる制作ノートでの振り返り)

・その他エピソード(画像などを含めて)

昨年、認知力向上トレーニング「コグトレ」がオンラインでサービスが始まったという情報を得て、1月末から実際に数アカウント導入し、検証を始めることができた。ゲームのような感覚でトレーニングに取り組むことができるので継続して行いやすく、本人も興味を持って取り組むことができています。3月末まで取り組み、効果測定を検証していく。